

温かい風景

豊橋市立東陽中学校

阪口 亜希子

今年度、私は初めて適応指導教室の担当となり、担任として学級をもっていない。担任をもっていないからこそ見える東陽中学校の様々な温かい風景を見させてもらっている。

体育祭のメイン種目であるクラス対抗全員リレーの直前、三年生のA子がこんなことを言った。

「足をくじいたみたいだから走れない。遅くなってみんなに迷惑をかけちゃうから、代走の人に走ってもらうよ。」

それを聞いたクラスの生徒達は「最後の体育祭だからみんなで一緒に走りたい。みんなで走るから意味があるんだよ。」

と声をかけた。A子は痛い足をかばいながら一生懸命に走った。足をひきずりながら走ったので、他のクラスにどんどん抜かれてしまい、一位はとれなかった。しかし、A子を含め、クラス全員が笑顔でいっぱいであった。リレーの結果よりも、「クラスのみんなで一緒に走りた」という気持ちをお大切に見て、仲間を思いやる絆が育っているなと感じた。

また、歌の東陽と言われる本校では、歌に関連するドラマも生まれる。生徒達は、合唱コンクールに向けて、どのクラスも練習を積み重ねて、自分達の曲を創りあげていく。昼放課や帰りの練習で、指揮者や伴奏者、パートリーダーが中心となりハーモニーをつくっていく中で、それぞれが悩みを抱えることもある。

ある日、一年生の指揮者のB子が「指揮も上手にできないし、みんながこわい顔をして見ていて、指揮をすることができません。」

と言った。すると担任の先生は「あなたが笑顔になってごらん。」とアドバイスをした。翌日からB子は笑顔で指揮をするように心がけて、指揮者としてやり遂げた。

「笑顔で指揮をしたら、みんなが笑顔で返してくれた。それが嬉しかった。」とB子は合唱コンクールを振り返った。

行事を通して一人一人の居場所がつけられているなど感じた。

これからも、生徒達の笑顔があふれる学校を支えていきたい。

